

第75号

発行
平成23年8月

センターだより



第9回大分かぼすカップ車椅子ツインバスケットボール大会

目次

- ・ 就任挨拶 2
- ・ 訓練機器紹介 3
- ・ 大分県障がい者スポーツ大会、蛍の交歓会 4
- ・ 夏のスポーツ大会、納涼盆踊り大会 5
- ・ 終了生の近況 6
- ・ 頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会のご案内 7
- ・ 終了生の状況、職員異動、利用者募集のご案内 8

指定障害者支援施設

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局

別府重度障害者センター

就 任 挨拶



所長 小石 公二郎

本年4月1日付けで当センター所長に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

私は、この別府センターで採用され、30余年ぶりに再び勤務させていただくことになりました。当時の面影はほとんどなく寂しさもありますが、少しずつ発展してきたことは喜ばしい限りです。

本年3月、「未曾有の」、「想定外の」などと形容された東日本大震災が発生しました。多くの被災者の方は「これからどうしたらよいのかわからない」という追いつめられた気持ちになっているとも報道される中、数万人の死者・行方不明者の鎮魂、被災された方々の悲哀や絶望感に、自分はどのようなことが出来るかなどと思いながら赴任してきました。

センターの利用者の方々も、今まで普通に出来たことが出来なくなり、絶望感の中で生き方の転換を求め、このセンターに来られたのではないかと思います。

このような利用者の方々への期待に応えるためには、各専門スタッフの技術等の向上、職員間の情報共有と連携、関係機関との協同関係の構築などに努めるとともに、より良いサービスを提供することにより、利用者の方々への意向に沿った社会復帰等を実現していくことが重要だと思います。まずは、医療スタッフは医療スタッフの、介護員は介護員の、専門職は専門職の、私は私の役割を全うし、職員が一丸となって今できることを精一杯行い、現状に満足することなく創意工夫していくことで、このセンターを必要としている方々の期待に応えられるように努力していきたいと思います。

そして、頸髄損傷などで重度の障がいのあるの方々に対する自立訓練等を効率的に実施してきた、その蓄積された知識や技術などを関係機関や地域で支援するの方々にも伝えていけたらと思います。

また、重度の障がいのある方々が充実した社会生活を送っていくためには、それぞれの地域の支援者や関係機関などのご協力が欠かせません。どうか今後ともご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



訓練機器紹介

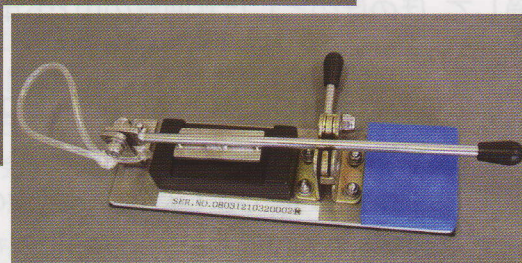
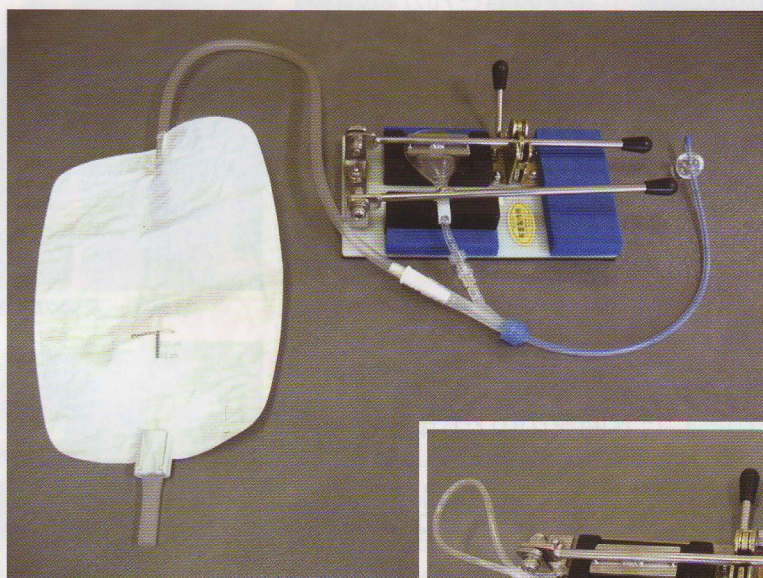
バルーンホルダー

作業療法部門

就寝時排尿管理において自尿や自己導尿の管理では安眠が妨げられることが課題でしたが、近年では就寝時のバルーンカテーテルの使用によりその問題も解決してきました。しかし、カテーテル留置は医療行為であるために、当センター内では看護師もしくは自力で留置動作を行わなければならない、また、施設退所後の生活においても訪問看護や家族に頼らざるを得なくなることから、介助時間の制約や精神面での負担が生じており、頸髄損傷者にとっては排尿管理を自力で完結できることがADL・QOLの拡大に繋がる要素となっています。そのため、改善策として自力動作(カテーテル留置)の見直しと器具の作製を試みました。

カテーテルの留置の動作は就寝時排尿管理方法として用いられるためベッド上で動作を行うこととなります。その行為の一連としては、消毒・カテーテル挿入・リザーバー操作によるバルーンへの水の注入・クランプを閉じる工程があります。C6レベルより高位の頸髄損傷者の場合はループ等の工夫によりカテーテル挿入までは行うことが可能であっても、リザーバー操作以後の動作が困難な状況があります。それに対してはテコの原理を利用してリザーバー操作を行い、それを保持した状態でクランプを閉じることのできる自助具の作製を試みました。結果、困難であったリザーバー操作・クランプが可能となり、C5レベルからの実用的な使用が可能となりました。

頸髄損傷者の排尿管理は道具に頼る部分が多く、その中で作業療法士が介入する必要性が増してきます。排尿動作以外においても、対象者の個々の生活構造に合わせて利便性を高めていけるように引き続き支援機器の考案を行っていきたいと考えます。



第6回大分県障がい者スポーツ大会

5月21日、第6回大分県障がい者スポーツ大会が開催され、当センター利用者2名がアーチェリー競技に出場しました。練習の成果を十二分に発揮し、自己記録を更新する活躍でした。お二人の健闘ぶりをご紹介します。

◆月見 信右さん

私がアーチェリーを始めたのは、センターに来て3ヶ月ほどたった頃、送別会で「やってみないか」と同じ利用者の方に声をかけられたのがきっかけでした。まずは、ゴム引きの練習を1ヶ月、その後、5,10,15,20mと距離を伸ばして練習しました。3月に同じ五島市出身の川谷さんが加わり、5月21日の大会に向け猛練習が始まりました。さて当日、2人は障害の違いで別のクラスで出場です。私のクラスは私1人、川谷さんのクラスは常連数名の出場です。センターの職員や家族の応援の中、72本全ての矢を放ち、2人とも練習以上の点数を出し、見事に川谷さんは3位に、私は1位という結果になりました。楽しい思い出になりました。皆さんも、ぜひやってみて下さい。

◆川谷 功さん

アーチェリーを始めたのは、私と同じ五島市出身の月見さんが、先に取り組んでいたことがきっかけです。月見先輩と2名で、楽しく練習できました。5月21日(土)の障害者スポーツ大会では、初めての公式試合で選手宣誓の大役も命ぜられ、緊張の連続でした。競技は、30mの距離で前半36本、後半36本撃ちました。前半は178点と絶好調、ところが後半は的から外れるようになり、中盤はボロボロ、あせればあせるほど当たってくれませんでした。でも、終わってみると意外にも練習のときの倍の得点で自己最高記録となりました。精神の乱れが、即、得点に響いてしまうこのアーチェリーは、なんとも表現できませんが、癖になりそうです。たぶん事故で怪我しなかったら、この競技に出会わなかったと思います。これからも、続けていきたいスポーツの一つになりそうです。



蛍の交歓会

6月9日(木)、今年も竹田市立南部小学校の皆さんが「友情の蛍」とともに来所されました。同小学校の皆さんが採った300匹もの蛍のほか、各学年の生徒作品や花束、特産の手摘み茶などが、6年生40名の笑顔とともに贈呈されました。この交歓会は今年で46年目を迎え、学校関係者はもちろん地元のロータリークラブや教育委員会など、関係者の皆様に支えられながら毎年新たな歴史を積み重ねてきました。

贈呈式のあとは6年生の歌やリコーダー演奏の披露があり、昼食会や体験学習(車椅子ゲーム、ツールペイント、手織り等)などの企画を通して、ほのぼのとした雰囲気の中で6年生と利用者の交流が深められました。

そして・・・、夜には蚊帳を張って蛍を放ち、お待ちかねの鑑賞会が開かれました。幻想的な蛍の明かりに昔を懐かしむ利用者も多く、心温まるひとときを過ごしました。秋には「蛍の答礼」として、利用者と職員が南部小学校にお伺いする予定です。



写真① 友情の蛍を持って来所



写真② 車いす体験でのじゃんけんサッカー

夏のスポーツ大会

梅雨明け間近の蒸し暑い中、去る7月6日(水)に当センター体育館にて夏のスポーツ大会が開催されました。利用者・職員全員が紅白チームに分かれ、車いす使用による各競技が行われました。年々スポーツ大会未経験者が増えていることもあり、開会前は「スポーツ大会って何?」といった雰囲気でしたが、いざ競技が始まると勝負は負けられないと火花がバチバチと飛び散っていました。また、近隣の保育園児がパン食い競争に特別参加するなど、心和む場面もありました。そして、勝敗は最後の紅白対抗リレーの結果に託される大接戦に……。結果は見事、紅組の連覇達成となりました。普段とは違う一日を過ごし、参加者全員、リフレッシュした一日となりました。最後に紅白キャプテンからのコメントを紹介します。

【紅組キャプテン 川谷 功 さん】

初めてのスポーツ大会、なんと紅組のキャプテンを命ぜられました。最初は、「めんどくさいなあ」と思いながらも、白組キャプテンと選手宣誓の文句を考えたり、各種目への選手振り分け作業をしました。当日も適当にやろうと思っていましたが、プログラムが進むにつれ負けられないという気持ち(もし負けたら五島に帰ろう……)が強くなりました。そして紅組全員が勝利という目標のため、一致団結したように思いました。

最後は、対抗リレーで紅組が逆転優勝でしたが、赤・白関係なく利用者・職員全員がひとつのことに集中できたことは、とても良かったと思います。それに皆さん気持ちのいい汗をかき、楽しいひと時を過ごせたのではないのでしょうか。また来年が楽しみです。(もういね〜し)

【白組キャプテン 河室 隆一 さん】

夏のスポーツ大会を終えて、私は白組キャプテンとしてあまりまとめる事はできませんでしたが、それぞれの方が楽しく交流を深めた事は良かったと思います。結果は最後の対抗リレーで逆転され悔しい思いをしましたが、全員が一生懸命、競技や応援に取り組む姿には感動しました。皆さん、スタッフの方々、お疲れ様でした。



納涼盆踊り大会

8月3日に恒例の「納涼盆踊り大会」が行われました。

この納涼盆踊り大会は、センターと南莊園町との共催で毎年実施しています。檣の組み立て、提灯の設置、テント張り等の設営から片づけまで、南莊園町の自治会長をはじめ町内の皆様とセンター職員と一緒にしています。当日は、大勢の方が参加され、別府音頭、温泉踊り、やっちきの3曲を「古戦場太鼓」の皆様の太鼓に合わせ、「別府民謡会」、「寿扇会」及び「南莊園町婦人部」の皆様の先導により、センター職員、利用者及び町内の皆様が大きな輪をつくり、踊りました。また、会場では、ポップコーンを作ったり、金魚やヨーヨーをすくったりと、和やかな雰囲気の中、楽しいひとときを過ごしました。

終了生の近況

NPO任意団体 湯輪夢(トリム)の活動について

あとりえ湯輪夢 Web Shop店長 原西 雄志(平成20年3月終了)

おかげ様で「湯輪夢」は発足して3年目を迎える事が出来ました。「湯輪夢」では、別府重度障害者センターの職能訓練にて手織りまたはトールペイントの技能を習得し、地元で制作活動をしている終了生の作家がメンバーとなっています。

「湯輪夢」の主な活動は、グリーンコープ連合さんの各地域での展示販売・ネット販売、重度センターの文化祭や各イベント等への参加などです。また、Web Shopに関しては、同年11月に新規オープンし、会員割引や携帯からの購入も出来る様になりました。

平成23年5月22日には、湯輪夢にとって初の単独イベントとして、大分市のアートプラザで「第一回湯輪夢フェア」を開催しました。

作家の個人ブースでは、参加した各作家の作品や、今回参加出来なかった作家の作品が沢山展示されていて、実際に見ないと分からない細かい所や筆使いが良く分かって参考になりました。また、絵画体験コーナーでは、作家が講師となって熱心に指導し、大人からお子さんまで楽しそうに好きな絵柄を描いていました。

さらに会場を盛り上げてくれたのは、終了生で車いすの歌手でもあり、あとりえ作家でもある真北聖子さんのミニコンサートです。コンサートが始まると、彼女の歌声にみんな聞き入っていました。オリジナルの歌詞もとても良かったです。

今回のイベントに参加した作家は5名でしたが、次回はまだもっと多くの作家に参加して頂き、「湯輪夢」の活動をさらに理解して欲しいと思います。これからも「湯輪夢」の応援をよろしく願いいたします。



終了生の近況

神野 仁茂 さん(平成21年7月終了)

みなさん、こんにちは。初夏を感じる間もなく蒸し暑い夏がやってきてしまいましたが、いかがお過ごしでしょうか。私は別府重度障害者センター終了生で、レベルは両手ともC6B2ぐらいです。

退所後は埼玉の職業訓練校を経て、今年の3月に大分県にある特例子会社(ホンダR&D太陽株式会社)に就職することができました。仕事はCADオペレーターというのでしょうか。3DのCADや機械製図など今まで全く経験のない分野での仕事で、毎日のように新しいことを学べるので楽しくやれています。PCの操作はトラックボールを使っていますが、出張先などにトラックボールがあるとは限らないということで、通常のマウスも少しずつでも練習しておこうと思っています。

現在は会社の社宅で一人暮らしをしています。通勤時間は自走で5分かからない程度なのですが、仕事場は坂を上ったところにあるので雨の日なんかはちょっと大変かな。部屋の中は完全にバリアフリーで、人によっては改装の必要がないような環境です。私の場合はトイレに台を設置して風呂場とフラットにしてもらったくらいで、思いのほか簡易的な改修で済みました。週1回ヘルパーさんに掃除をしてもらい、困ったときは同じ社宅の人や家族に手伝ってもらいながら生活しています。

それではみなさん、訓練に勤しんでください。センターにいるうちは、諸々の不安材料を棚上げにできる時期ではないでしょうか。そこを出た後では難しいことがたくさんありますので、退所のギリギリまでやれるだけのことをやっておくと後々の生活が楽になると思います。私はサボってばかりいたので、もう少しやっとならばよかったなとちょびっと後悔しています。

「頸髄損傷者に対するリハビリテーション研修会」ご案内

● 1日目 平成23年11月12日(土) 10:30～17:00 ●

1 場所 別府大学 メディア教育・研究センター(別府市北石垣82)

2 プログラム

① 基調講演「頸髄損傷者の現状と課題」

講演者:国立障害者リハビリテーションセンター

自立支援局長 中村 耕三

② 事例報告

● 2日目 平成23年11月13日(日) 10:00～16:00 ●

1 場所 別府重度障害者センター(別府市南荘園町2組)

2 プログラム

① 実技Ⅰ・Ⅱ 毎に各実技実施

② 所内見学(希望者)

実
技
内
容

職員が講師となり、各訓練室等において、実技研修を行う。

実技Ⅰ 対象:PT等セラピスト

PT実技、OT実技、スポーツ実技の3グループに分け各1時間程度実施

実技Ⅱ 対象:ケースワーカー、職能訓練員等

生活支援(事例研究等)、職能実技を実施

※詳細、申込方法等については、9月上旬にセンターホームページ等で案内予定。

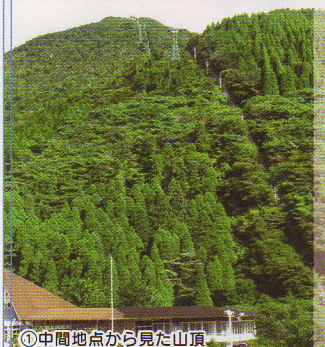
ご当地探訪 in 別府 「鶴見岳一気登山」

今回から、大分県の素晴らしい自然を「ご当地探訪in別府」としてご紹介していきます。

初回は、別府市名物の「鶴見岳一気登山」をご紹介します。毎年3千人近い市民が参加する恒例のイベントで、平地のほとんどない別府市ならではの「市民マラソン」ならぬ「市民登山」と言ったところでしょうか。鶴見岳は、市内の標高1375mの活火山で、別府センターもその裾野に位置します。

この大会の一番の特徴は、国内で唯一、幹線自動車道を一切通らずに山頂を目指すコース設定にあります。市民マラソン同様に難易度別のコースがあり、タイムを競う「韋駄天コース」の優勝者は、海拔0mの海岸から標高1375mの山頂までの12kmを約75分で駆け登ることになります。まさしくイッキ飲み、ではなくイッキ登山なのですが、果たしてこれが市民の健康増進に繋がるかどうかはやや疑問です。

実は私も来年4月の大会参加に備えて、何度かこっそり山頂まで登ってみました。ところがこれが想像以上にきつい!特に標高500mの中間地点(写真①)より上の4kmは、野生の鹿や蛇に出会いながら、携帯も圏外で孤独な登山となります。その一方で、コース前半には九州の歴史を物語る名所旧跡もあり、写真②は有名な旧太宰府官道との合流地点です。太宰府官道は、1300年前の律令国家時代に太宰府と九州各地の交易を支えた日本最初の国道とも言われており、現在の鹿児島県までの九州周回ルートになっていました。写真右側の細い獣道を120kmほど進めば太宰府市に着くはずですが、ここは人生同様、安直に左の道を選びます。センターを出発して約3時間半、めでたく山頂に着きましたが、それはそれは航空写真を見るような素晴らしい眺め(写真③)でした。次回は、国東半島の名刹に足を伸ばしましょう。



①中間地点から見た山頂



②太宰府官道との分岐点



③山頂から見た別府市内

終了生の状況

(平成23年1月1日～平成23年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	現職復帰	就労支援施設	他施設	病院	進学	その他	計
人数	12	1	1	1	2	2	1	0	1	21
比率(%)	57.0	4.8	4.8	4.8	9.5	9.5	4.8	0	4.8	100.0

職員異動

平成23年2月28日付

○ 退職 支援課生活支援員 松野麻美子

平成23年3月31日付

○ 退職 所長 中村 欣三

平成23年4月1日付

- 転入 所長 小石公二郎(関東信越厚生局より)
- 支援課長 工藤 裕司(国立障害者リハビリテーションセンターより)
- 医務課介護員 阿部 功(伊東重度障害者センターより)
- 転出 支援課長 後藤 幸雄(国立障害者リハビリテーションセンターへ)
- 医務課介護員 利光香奈子(伊東重度障害者センターへ)
- 内部異動 主任作業療法士 阿南 誠二

平成23年5月1日付

- 転入 支援課生活支援員 島崎 将臣(国立障害者リハビリテーションセンターより)
- 転出 医務課介護員 若杉美麻子(国立障害者リハビリテーションセンターへ)
- 新規採用 医務課介護員 手嶋 隼也

平成23年5月31日付

○ 退職 作業療法士 大石 奈央

利用者募集のご案内

当センターは、厚生労働省が設置・運営する指定障害者支援施設として、自立訓練(機能訓練)を中心とした様々な支援により、重度の肢体不自由のある方(主に頸髄損傷等による四肢麻痺者)の社会復帰を支援しています。ご利用できるサービスは以下の通りです。

○自立訓練(機能訓練)

理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練です。

利用期間については、利用開始後の評価等に基づき作成した個別支援計画書に定めた期間となります。障害者自立支援法上の標準利用期間は1年6か月間です。(頸髄損傷による四肢の麻痺その他これに類する状態にある方は最大3年間です。)

○施設入所支援

自立訓練(機能訓練)を利用される方で、自宅から通所が困難な方のために、看護・介護等の支援を受けながら宿舍の利用が可能です。

なお、当センターの概要や利用申込み手続き、見学などのお問い合わせについては、下記までご相談ください。

お問い合わせ先

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局

別府重度障害者センター 支援課

住所 〒874-0904 大分県別府市南莊園町2組 <http://nrkd.jp/beppu/>

電話 0977-21-0182(相談・受付窓口直通)

0977-21-0181(代表)

FAX 0977-21-2794

E-mail soudan@beppu-nrh.go.jp